

平成24年度第3回四街道市総合計画審議会議事録

| | | | |
|--------|---|----------------------------|--|
| 日 | 時 | 平成25年3月1日(金) 13時30分～16時00分 | |
| 場 | 所 | 四街道市保健センター 3階大会議室 | |
| 出 | 席 | 者 | 高橋会長、藤本委員、岡田委員、玉井委員、 浅野委員、金子委員、田中委員、飛田委員、松隈委員 |
| 欠 | 席 | 者 | 岡本委員、米村委員、園川委員、花井委員、吉田委員 |
| 事務局出席者 | | | 岡田経営企画部長、大野経営企画部次長、大野政策推進課長、 阿部主幹、和田主査、榎本副主査 |
| 傍 | 聴 | 人 | なし |

【事務局】 本日はお忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。急な開催となり、誠に申し訳ございませんでした。定刻となりましたので、ただ今から平成24年度第3回四街道市総合計画審議会を開催いたします。

議事に入ります前に本日の資料の確認をさせていただきます。事前に送付させていただきました資料としまして、「総合計画審議会意見・要望対応表」というA4横の7枚綴りのものを送付させていただきました。そして前回、第2回の際にお配りしてあります資料、「四街道市総合計画「序」(案)」、「基本構想骨子(案)」、「土地利用構想(案)」、こちらがでございます。そして本日机の上に置かせていただいておりますのが、「会議次第」、それから「まちづくりを考えるタウンミーティング結果について」というA4判1枚の紙でございます。それからタウンミーティングの際に参加者に配布しました「新たな総合計画について(1)(2)」というA3判の紙がでございます。こちらも参考としてお配りさせていただきました。

なお、本日の会議につきまして、岡本委員、園川委員、米村委員、花井委員、吉田委員より欠席の連絡を受けております。

また、本日は前回、前々回とご都合により欠席されました千葉科学大学准教授の藤本一雄委員が出席されておりますので、一言ご挨拶を頂戴したいと存じます。

【藤本委員】 千葉科学大学の危機管理学部で准教授をしております藤本といいます。よろしくお願いたします。

【事務局】 ありがとうございます。それでは、早速議事に入らせていただきますが、以後の進行は高橋会長にお願いします。高橋会長、よろしくお願いいたします。

【高橋会長】 お忙しいところ、前回に続きましてご参加いただきましてありがとうございます。さっそく始めさせていただきます。

最初に議事に入る前に、本日の会議の議事録署名人を指名させていただきたいと思います。岡田委員と飛田委員にお願いしたいのですがいかがでしょうか。

【両委員】 了承

【高橋会長】 ありがとうございます。それでは議事録署名人を岡田委員、飛田委員にお願いいたします。では、早速会議に入らせていただきます。

まず本日の会議の公開、非公開について、四街道市の総合計画審議会運営要領第3条の規定により公開にさせていただきたいと思います。会議資料につきましては、「審議会等の会議の公開に関する指針の解釈運用基準」の規定により傍聴人の閲覧に供することといたしますが、このうち総合計画審議会の意見・要望対応表につきましては意見形成過程のものであるということから会議終了後に回収し、それ以外の資料につきましては配布したいと思います。よろしいでしょうか。

それでは特にご異議がありませんので、本日の会議は公開ということで進めさせていただきたいと思います。傍聴人がいらっしゃったら入室させてください。

お手元の会議次第に従いまして進めさせていただきます。本日の議事は2つありまして、1つは、「四街道市総合計画「序」(案)」、それから「基本構想骨子(案)」につきましてご議論いただき、2番目に「その他」となっています。

それでは最初の議題(1)につきまして事務局から説明をお願いいたします。

【経営企画部長】 経営企画部長の岡田でございます。本日はお忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。前回1月31日に開催させていただきました第2回の審議会におきまして基本構想骨子(案)等につきましてご議論いただいたところでございますが、十分なご議論をいただく時間に不足が生じたことをから第3回審議会を追加で開催させていただいたところでございます。会議開催に当たりまして、委員の皆さまより多くのご意見を賜りましたことに厚く御礼申し上げます。

なお、本日の議事内容につきましては大野政策推進課長よりご説明させていただきますのでよろしくをお願いいたします。

【政策推進課長】 それでは議題(1)の「四街道市総合計画「序」(案)・基本構想骨子(案)」についてご説明させていただきます。

ただ今、部長からもお話がございましたが前回の会議におきまして十分な議論の時間が設けられなかったということで、非常にお忙しい中、大変恐縮でございますが皆さまに本日再度お集まりいただいたところですので、また、前回の会議終了後に皆さまからご意見をメール等でいただいたところでございます。いただいたご意見につきましては、事前に郵送で配布させていただいた総合計画審議会意見・要望対応表に前回会議でいただきました意見と合わせまして、審議会のご意見等とし、それに対する事務局の考え方をお示しさせていただいたところでございます。

ご意見の内容につきましては、ご覧になっていただいた方もいらっしゃると思いますが、やはり人口に関するご意見を多くいただきました。また、ご指摘を受けて修正させていただきたいと考えているもの、それから今後の基本計画策定において参考とさせていただきたいと考えているものなども多くございます。また、市といたしましては、いただいた意

見を十分尊重しながら今後の基本構想、基本計画の策定に当たってまいりたいと考えております。

なお、本日は特に基本理念やまちづくりの視点など、基本計画策定の土台となる基本構想骨子、こちらについてご議論いただき、これに対するご意見を賜ればと考えておりますので、皆さまよろしく申し上げます。

それでは、意見・要望対応表につきまして、本日特にご意見をいただきたい基本構想骨子にかかる皆さまからいただいたご意見を中心に、阿部主幹よりご説明させていただきたいと思っております。

【事務局】 それでは事前に配布させていただきました資料、総合計画審議会意見・要望対応表につきましては先程もお話ししたとおり、1月31日の会議でいただいたご意見、それから会議終了後に2週間という大変短い期間にいただきましたご意見、そちらをまとめさせていただくとともに、ご意見に対する対応を記させていただいたところがございます。項目につきましては64項目ございます。

大きく分けまして、「序」それから「基本構想骨子（案）」、それから「全体について」というところもございます。「序」につきましては、前段としてこういう形で捉えているということで、事務局の見解にてご了解いただきたいと思います。

基本構想について説明をさせていただきます。6ページ、番号でいいますと30番、こちらの花井委員のご意見から基本構想の関係が始まります。基本構想の骨子に関するまちづくりの理念から項目ごとに出させていただきます。まず、基本理念につきましては、このような対応ということで目的なり解釈となっています。

次にまちづくりの視点でございますが、こちらについては32番で藤本委員から「つなぐ」をキーワードとしているので基本目標も「つなぐ」視点が必要ではないかという意見をいただいております。こちらにつきましてはどのような形になるかはまた別途お示しすることとなりますが、事務局の見解に書いてありますとおり横のつながりを重視してまいりたいと考えております。この横のつながりというのは基本目標相互の横断的な取組となるのか、どのような形になるのかは後日、ご意見を十分反映させた上でお示しさせていただきます。

それから33番、34番は将来都市像です。これ以外にも将来都市像の話を含めていただいているところがあるのですが、今の将来都市像がなかなか具体的に連想できないので、わかりやすいものをとというご意見をいただいております。

それから35番から将来フレームの人口フレームに入ります。人口フレームにつきましては1月31日の会議でもいろいろとご意見をいただいております、会議終了後にも多くのご意見をいただいているところです。意見の中では64項目中15項目を占めております。内容といたしましては、岡本委員から会議時にもご意見がございましたが、35番の内容で土地区画整理事業の人口を純粹に加えてしまってよいのかというご意見がありました。こちらについては最終的に区画整理により市外からの転入が促進されるということで、人口としては、この数字で考えているということでお示しさせていただいております。

その他も何点かご意見をいただいております。平成30年度が92,000人、平成3

5年度が93,000人という数字がどうであるかということについて、その算出の方法、結果についていろいろなご意見をいただいておりますが、適当ではないかというご意見、それからちょっと甘いのではないかというご意見もあります。例えば40番の田中委員のご意見で、人口は目標と捉えるか、見通しで捉えるかで考え方は異なる、といったようなご意見をいただいておりますが、事務局では、人口フレームは達成可能な目標と考えているということで、推計をもとに達成可能な目標として設定しているという解釈でございます。

それから53番、54番、55番で土地利用構想のお話をいただいております。松隈委員、浅野委員からもご意見をいただいておりますが、コンパクトシティといったコンパクトなまちづくり、これは都市計画法等に基づきまして、現在、各地で進められているのですが、こういった考えをもって土地利用を進めていくべきだというご意見をいただいております。当市も市街化調整区域の開発を原則として抑制し、コンパクトな地域づくりを進めていくということではございますが、具体的な施策等につきましては、基本計画の中で示していくという形で対応させていただいております。

それから景観を損なう業者の取り扱いについてのご意見もあるのですが、こちらにつきましても基本計画の中で捉えていきたいと考えております。

それから56番では、浅野委員から都市計画道路の全体的な見直しが必要だというご意見をいただいております。土地利用の一環ということでご意見をいただいているところだと思っておりますが、当市としては総合計画を踏まえた上で、都市計画の道路整備プログラムを作成しておりますので、そちらで必要に応じて対応を図っていくべきと考えております。

主なところはそのようなところでございます。その他いろいろなご意見をいただいておりますが、こちらに書いてあるとおりの事務局の見解なのですが、具体的な施策等に対するご提案、ご意見につきましては、基本計画の策定の中でお示しさせていただきたいと考えておりますので、その辺をご了解いただきたいと思います。非常に簡単でございますが、以上でございます。

【高橋会長】 各委員さんにおかれましては大変お忙しいところ、このようにご意見をいただきましてありがとうございます。ご意見は骨子案の全般にわたっていろいろいただいておりますけれども、今日は時間も限られておりますので、一つの部分だけに偏らないように骨子案全般にわたって再度ご意見をいただくため、順番に進めていきたいと思っております。その場合に、細かくはご紹介しませんでした。事前にお配りしました資料に意見・要望に対する事務局の見解が既にかかれておりますので、それ以外のものでお気づきの点等を挙げていただきたいと思います。

今日、この意見・要望対応表の事務局の見解、それから本日いただく意見等を踏まえて、次回は基本構想の案というのが出てくると思っておりますので、それについて議論をしていただきます。そういうことで大変恐縮ですが意見がダブらないように進めていきたいと思っておりますので、よろしくご協力のほどお願いいたします。

それでは1つずつ、非常に短いですが15分位の時間で議論していきたいと思っております。最初に骨子案の1まちづくりの基本理念に限定して今までの出された意見以外がございま

したらいただきたいと思います。

ここでは市民が主人公ということと、みんなが市政に参加し、協働、一緒に働くという意味の協働ですが、協働する意識を考えていきたいという、そういう基本理念を述べておりますが、何かございますか。

【浅野委員】 今会長が言われたとおり、みんなが主役のまちづくり、これはやはりキーポイントだと思います。タウンミーティングか何かで市長から聞いた話なのですが、庁舎の耐震上の問題で建て替えの検討を始めていると、それで公募委員2名と大学の先生と一緒に。それを踏まえてワークショップにかけて、どういう格好がいいとか、どういう色がいいとか皆が意見述べ合っ。それでも皆が満足できるようなものにピッタリ出来るとは限らないわけけれども、公共事業というのは何かトップダウンで、先にやるのだ、作るのだ、それで公共事業だというふうなことが過去いっぱいあったわけです。そういうことから考えればやはり本当の必要性ということ踏まえて、第三者の先生あるいは研究者、また公募委員も入ってワークショップで揉んでいくというやり方は、手間暇かかるけれども、一番いいと思うのです。執行部の方はご存じだと思うのだけれど、八千代市で新川の改修計画があつて、そこでふるさと農園だとか、夢のような施設をあれこれ作って何十億というお金をかけて、また当然維持費も何億円、それ以上かかる。そのようなことだから反対運動がどんどん、どんどん強くなって、先日もマスコミ、テレビでいわゆるトップダウンのまちづくりというのが、市民から抵抗を浴びてしまっているというようなことが紹介されていた。そういうことから市民が主役のまちづくりを単なる念仏にしてしまふのではなくて、本当に基本の基本に据えてやっていただきたいと思います。

【高橋会長】 基本理念として、これでいいのではないかとということですね。

【浅野委員】 そうですね。

【高橋会長】 もし直ぐ今ご意見がなければ、2番目も含めて議論していきたいと思いますが、よろしいですか。

2番目にまちづくりの視点というのが書いてあります。これは少子高齢化それから地域の活力低下という背景の中で、特に安全・安心ですね、東日本大震災もありましたけれども、そういう意味でも安心・安全意識は高まっていると、そういう中では地域コミュニティの重要性がもう一回見直されていいのではないかと。特に市長さんおっしゃっているように、未来を担う子どもたちに重点、視点を置いております。そして最後はそれをキーワードとして、「つなぐ」という言葉で、ここには書いてあり、イメージ図が下にあります。この部分についてのご意見はございますか。

こういうのが足りないとか、こういうのをもっと強調すべきとか、いろいろとお気づきの点があればご意見をいただきたいと思います。

【飛田委員】 基本理念と関連して、まちづくりの視点が連動すると思うのですけれども、

お互いつなぎの段階であれば、例えば協働という問題において、誰が主役になるかという
と、これからはどんどん高齢者になると思うのですね。子育てということで子どもを育て
なくてはいけないという若い人たちの参画と、高齢者の方が主役、そういう協働の場が、
多分ここで強調されるのであれば、両者をうまくここに書き込んでいくと。例えばヨーロ
ッパ、スウェーデンとかだと老人たちが働いていますよね。ほとんど高齢化率も16パー
セントくらいで収まってきているということは、やはり彼らが働く場が設けられていると
いうことですね。四街道もいずれはそういう高齢者の比率が高まると思うのです。だか
らそういうものを連動していかないとならない。私が仲間と話すといつも、それでは俺た
ちはどうなるんだと、こういう問題が出てくるのです。俺たちも協働事業とかそういうこ
とで市の行政の役に立とうという努力をする人たちもいます。だからそういうものも協働
の中ではっきりとそういうものを謳えるような。これでいいのです、理念は。理念はよろ
しいのですけれど、その下についてくるところで、良くかみ込んでもらいたいなという意
見です。

【高橋会長】 今のご指摘から見ていくと、まちづくり視点の少子高齢化という認識はあ
るのだけれど、視点として子ども中心とか書いてある。高齢者とは書いていないから、こ
こに高齢者の参加とか社会的役割が高くなるようなまちをつくるというのも、ご指摘を入
れるとすれば大事だと思うので、これを役割とかもう少しご検討いただければ。

同じ字句は入っているけれども視点の中には具体的、明示的には入っていないので、せ
っかくだから入れた方が、今のご意見、ご発言が生きるのではないですか。

【事務局】 今のご意見を伺いまして、その点も踏まえましてこの後検討させていただきます。

【飛田委員】 仲間からもそういう意見が沢山出ていまして、一生懸命やっているのだけ
れど俺たちはどうするのだという、そういう意見も出るわけです。

【事務局】 この視点の中で入ってきていないというのは、ご指摘のとおりだと思います。
ただ、今、市長もマニフェストでは謳っておりますが、高齢者が活躍していく場をつくっ
ていかなくてはいけないというのは当然出てきますので、今進めております基本計画には、
高齢者の活躍の場というのはお示しできるのではないかと考えております。そういった点
も踏まえていろいろ検討させていただきます。

【松隈委員】 単純な質問で申し訳ないのですが、現行の総合計画、それらの中で「活か
す」ということで、当初の視点には載っていましたが。今回は「つなぐ」になりました。だ
から大分活かされた部分、こういうところが成果として出て、それを次代につないでいき
たいというような文言にはならないですか。前の文言が「活かす」で、いろいろな施策を
やられて、活着ていることはいっぱいあるわけですね。やはりいいものは継続すると。い
きなり活かすからつなぐということで、どういう形でつないでいくのかということが不明

確なところがあるので、ここに今まで活かされていたやつが、こなされて次世代につないでいきますよというような、少し成果的な文言を入れたらどうかという案です。

【高橋会長】 最後の3行のところもどんな感じに。最後の3行が「つなぐ」説明ですね。地域と地域、世代と世代になっているけれども、もう少し政策同士の継続性みたいなもの。

【松隈委員】 今まででは自治、自立しなさいということでいろいろと皆やってきて市民の中で、地域で自立しましょう、何しましょうと、そういうことでいろいろとやってきた成果がようやく芽生えてきている。そういうことも含めて「つなぐ」のですよ。いきなりつないでしまうと、何をつなぐのかということが不明確に聞こえるので、もっとそこを明瞭に一言か二言入れていただいたらいいのではないかという感じです。

【高橋会長】 今のご意見を踏まえて、事務局いかがですか。

【事務局】 そうですね、趣旨としては今おっしゃられたとおりで、今まで過去に活かしてきたものを、それを活かしながらつないでいく話なのですが、端的にそのところの表現がという、今ご指摘のような感じもあるので、工夫できる部分は工夫させていただきたいと思います。

【高橋会長】 今おっしゃった地域のハード、ソフトをストックみたいに活かしていくというような、そういうような言い方でもいいのですね。具体的な施策を継続してやるというような書き方にしなくても、四街道が持っている本来のいろいろな大事なものとかが伝統とか、ソフト、ハード、いろいろなものを活かしていくというような言い方であればいい視点になるのではないかと。何かそんなことをもう少しご検討いただくというようなことでどうでしょうかね。

【田中委員】 感じだけなのですが、なかなか素敵な視点だなと感じているのですけれども、新たな総合計画について[2]の2で左側の文章と右側のイメージ図で、人と人をつなぐ、地域と地域をつなぐ、何か人と自然というのが左側の文章にあるのですけれども、自然との関わり合いというのが四街道市の特徴だとすると、右側の方にも何か、あるいはその下の人と自然をつなぐとかというのがあり得るとしたら検討していただけたら。

それと、人と人を「つなぐ」のところの中に、世代、3番目に地域と地域の間がちょっと離してありますけれども、人と人をつなぐ、みんな同じような、あるいは世代と世代をつなぐということで、何かそれは横向きでもいいのかなという感じが少ししますので、人と人をつなぐ、世代と世代をつなぐ、そして例えば人と自然をつなぐ、地域と地域をつなぐとかという感じで。

【高橋会長】 そうすると上の四角にも関係があるように思いますが。

【田中委員】 人と世代が離れていますが、人というのは世代も含めていると思いますので、先程の飛田委員の感じともちょっとあって、一部ダブってしまうのですが、ちょっと近づけて1行目の1番上の方にしてはどうかと感じたのですが、でも。

【高橋会長】 これは今回オリジナルのイメージ図ですか。

【事務局】 そうですね。いろいろ考えさせていただいて、お示しさせていただいていますが、この図で確定ではなく、いろいろとご提案いただければ、それを加味してもう少しPR性のあるというか、分かりやすいものに変えていきたいと思っております。

【田中委員】 四街道には都市化された中で、例えばどんぐりの森とかいろいろあるのですが、あそこですばらしい保育活動とかやっていて、何か自然とつながっているといえますか、自然の保全とつながりというのがあるのでしょうかけれども、広い意味では保全、活用も含めてつながりというのを視点として、四街道市の財産として打ち出してはどうかという感想です。

【高橋会長】 ここに世代と書いてあると、先程の松隈委員のおっしゃられたようなことは世代、世代である程度生きているのかなと思ったのですが、考えてみれば人も世代も地域も下に別れているのは、これでいいのだろうか。むしろ田中委員が言われたように、もうちょっと何かあるのかもしれないですね。

【飛田委員】 今の流れとして、地域資源という問題もそうなのですが、2月に私、地域活動コーディネーターという研修を受けてきました。実は私は千葉県生涯大学のコーディネーターなのです。勉強した結果なのですが、生涯大学で人が育っても、生涯学習をしても地域に生かされない。四街道も市民大学はあるけれど、市民大学を出っばなしで、後は何もしてくれない、そういう人材の育て方をしているのです。それはまずいという視点から考えると、やはり人が中心で、自然にもそれから地域にも、ほとんど関連するのです。関与しているのです。それをコーディネートするのが学びから得た人たちということから考えれば、つなぐものは何かということ人間なのです。地域にしても環境にしても、四街道の市民がみんなで力を合わせて、いまちにしようという発想の方が、パワーがあると思うのです。僕が感じて学んだ結果に得た結論です。

【高橋会長】 これは人と地域と世代、人同士、市民同士をつなぐ、地域、四街道市のいろいろな地域同士もつなぐ、それから世代だから時間的にも。そういう意味では確かに良く出来ているのだけれど、ぱっと見ただけで思い至るかどうかな。どうでしょうか、意外と難しいところですね。

【飛田委員】 これ非常にうまくつくられているので、つなぐのは人ではないかと。僕が学んだ中で感じたことなのです。そうしますとつなぐ中に、人を丸く入れておいてやれば。

端に出てしまうと、人が出てしまうからまとまりがなくなってくるのですよ。

【高橋会長】 「つなぐ」の中に人を入れて、地域同士、世代同士をつなぐということですか。

【飛田委員】 一緒につなぐのですよ。そうするとここで言っていることが全部リンクするのです。こちらに四角の中に書かれていますね。このつなぐのは誰だと、主役は誰だということであれば、市民だと言っている以上は人ですよ。

【松隈委員】 それは1番に、主役はもう市民なのだ、我々なのだということは、はっきりとありますが。

【飛田委員】 だから、そこの中に入れてしまえばいいのですよ。つなぐ人は誰だといったらば、そこに人を入れてしまえば全てがつながってきますよね。

【藤本委員】 それと似たような形で、1番の基本理念だと私どうしても防災の観点から話しますけれども、自助みたいなものだと思うのですね。自分がまず大事であるというか、これがないとダメで、次に視点の方に行く。「つなぐ」だからこれは共助みたいな話になってくると思うのですけれども、自助というか、自分がしっかりしていないとつながらないのです。だから例えばこれが一番最優先というか、土台があって、それを踏まえた上でのつなぐ視点ですとかというふうであればいいのですけれども、ただ並列に書かれてしまうと、自分が大事なのかなと思ったら、いや人同士で支え合った方がいいよというふうに取り取れて、じゃどっちなのということになるので、やはり1番の基本理念が一番重要であって、それを踏まえた次のステップ、さらに発展させたりするときにはつないでいく視点が大事ですというような。

【高橋会長】 今皆さんのいいアイデアだと思うのですが、1番の基本理念が「人」ということ、みんなが主役ということ。2番目に「つなぐ」という、2のところの3行のところ、地域と地域をつなぐ、世代と世代をつなぐというのは世代と地域がありますから、人をね、さっき飛田委員が言われたように、「つなぐ」を中心にもってくれば、1、2、3がつながるような気がします。ここはそういうご意見が出たということ踏まえて、これを市民の皆さんに分かりやすくするためには、どうも「つなぐ」の大事な真ん中に「人」「市民」を入れた方がいいのではないかというのが私たちの意見ですよ。どうですか。

【田中委員】 その地域という主体というか、地域と地域が何となくつながっているといえますか、という点からすると、人はそんなに前面に出してつなぐというより、その地域レベルというか都市レベル同士でつながっているというか、たとえば四街道市と成田市が、あるいは千葉市がつながっているということも含めて、まあ分担、連携や、こうということからするとこんな書き方もあるのかなど。人というのを無理に中に入れなくても。

【高橋会長】 そういう意見もあるのですね。

【金子委員】 つなぐという言葉は確かにいい言葉で、これは余計なことかもしれませんがけれど他の都市の計画とかで、つなぐという言葉結構使っているのですね。これは流行りなのですね。ちょっと気になったので。これしかないのかなと思って。もうちょっと具体的に何か、私もいいアイデアないのですけれどもね。何かないかなと思うのですけれど。端的に言う地域というのは、他の地域となるのはちょっとそこまで、はみ出さない方がいいと思うのですよ。自治会とのつながりとか、そういう形の方がいいと思いますので。

【事務局】 この地域は、四街道市内を地域と考えています。

【飛田委員】 市内ですよ。地域の人とのつながりをどうやっていくかという、人がいてそのつながりをつくって、その中でその人が何というかマネージをしていくと、そういう考え方でいいですよ。

【事務局】 人と人がつながることによって地域が出来てきて、人と地域がつながる。さらに地域と地域をつなぐ、そういう形で今考えています。

【飛田委員】 多分、人が中心だと思うのですよね。

【事務局】 おっしゃるとおりだと思います。人が中心となって、世代もまさに人です。

【飛田委員】 それをきちっと出した方が分かりやすいのでは。

【高橋会長】 確かに分かりやすくなりますね。いいアイデアを出されたのでご検討いただきたいと思います。

【玉井委員】 ちょっと質問です。今いろいろなご意見が出ているのですけれども、これは事務局としては、今日前回やりましたと、時間が足りませんでした、だから意見くださいと、今日はそれ以外にということでやられていると思うのですけれど、これは今日意見を取り入れてまた再度私たちに骨子案みたいなものを示していただけるのですか。

【事務局】 今日の意見を踏まえまして、基本構想（案）という形でお示ししたいと思います。

【玉井委員】 案の方にいかしていきたいと。

【事務局】 ここには目次だけで書いていない部分もあるのですが、それを少し文章化し

た案でと考えています。

【玉井委員】　そこで今日皆さんがおっしゃられた意見を、この次示すものにどんどん入れ込んでいきたいと思いますということで、そうすると骨子案というのは骨ですから、基本的には、これでいいでしょうと。それでこれにいろいろと肉付けをしていきたいと思います、そんなところですか。

【事務局】　そういうことです。

【玉井委員】　分かりました。そうであればこの絵なんかも今いろいろなアイデアがあって、実は私も県で森田健作知事の総合計画つくりましたけれども、やはり絵は1番重要なのです。これでイメージをされますのでいろいろな意見があるので、これはやはりもっと他にも意見があるかもしれませんが、時間をかけていいものをつくっていただければと思います。

【田中委員】　このまちづくりの視点の3行ありますけれど、発展とか、今後ますますの発展、私は成熟した都市としての発展という、成熟という感じのイメージがあるのですけれど。

【高橋会長】　どこですか、最初の3行目ですか。

【田中委員】　最初の3行目に、首都圏の住宅都市としてということで、普通ベッドタウン都市としてとしてということになってくると、あまり発展とか、まあ住宅都市というのは人が財産だと、そのような意味合いも含まれていると思うのですけれども、何か発展という言葉だけでいいのかというような中で、成熟という言葉がどこかに入ったらいいのかなど。それが1点。

先程の地域の問題ですけれど、地域は、市内の地域同士は連携をやるとしても、この首都圏の住宅都市として、千葉県における枢要な都市としての広がりといいますか、一応基本的には地域、市内の地域なのでしょうけれども、その向こうまで意識した感じでこれを捉えていく方が、左の3行もいろいろなことを含めてやると、やはりこれなりの商業都市、あるいは文化都市、教育都市としてという意味合いがありますよね。それは他の都市、他のいろいろな地域と他の都市とのやはり役割分担の中で、ここはやはり福祉都市なり何なりという、私は人に優しいとか、あるいは教育都市というイメージもあるのですけれど、この住宅都市というのも実はちょっとひっかかって。

【高橋会長】　今の話だと成熟ということになると、四街道は住宅都市としてしては成熟というのは皆が思っていますが、さらに他のことも言われたのですけれど、そういうのはまだ成熟していないですね。

【田中委員】 ですからそういうことを目指すのだ、まちづくりの視点ということで、その課題としてというのか、取り組むべき視点としてそういうものがあるのですよと、このところで少子高齢化の進展などによりと問題意識が3行の中にいろいろありますけれど、今後ますますの発展というのはちょっと、これでいいのかなという感じがします。

【飛田委員】 矛盾するのですね。だから多分田中委員も、僕もちょっとこの言葉が適切かどうかという疑問をもっているのは、今後ますます発展が期待されていますということは、四街道というまちは非常にもっと発展しますよということへのアプローチだと思うのですが、しかしながら少子高齢化で今後地域の活力が低下してしまうと発展なんてあり得ないと思うのですよ。

【高橋会長】 これ発展というのは、人口が増えるとか何か産業、経済力だけでなく、例えば福祉水準が上がったり、安くなったりすることも発展ですよ。そういう意味で、とにかく諸々の意味を込めてプラスの方向に、よりよい四街道になることを期待するという、そういう趣旨ですよ。だから今ここでは四街道はさっき田中委員が言われたように、成熟しているとか、またこういう面もあるとかいうものもあるのだけれども、そこは別に述べていなくて、今後もますます良くなることを期待すると、そういうことを言っているに過ぎないような気がするのですけれども。

【田中委員】 現行の総合計画の四街道市の歩みという部分に、やはり多様な都市機能を備えた四街道市としての発展ということで50年代から現在までであると、その前に昭和20年代から昭和30年代田園都市、そして住宅都市への転換ということになっているのだけれども、多様な都市機能というのがあるのではないかと私は思うのです。

【高橋会長】 分かります、分かるのだけれども、まちづくりの視点だから、ここでは発展の中身まではまだ言えないのではないかと。それはもう少し後の土地利用構想や施策の大綱に初めて、例えば住宅も施策の大綱になるだろうし、今そこでご指摘になったような新しい面も出てくると思うのだけれど、これはまちづくりの視点の最初だから、どちらかという頭書きなので、ここで具体的に例えば住宅都市、産業都市、学術都市、何々が期待されていると言ってしまうと、結論が先に来ってしまうような感じになってしまうのではないですか。

【田中委員】 住宅都市、例えばここに住宅都市および多様な都市機能をとということで、商業の核も、あるいは何か盲学校とかいろいろあった中で、教育都市的な点もあるので、その辺りも住宅都市、これはこれとして、かつ多様な都市機能を備えたということで、それなりの自立度の高い四街道市だと思っておりますので、住宅都市だけだと、私、前に県で計画を作った時に、ベッドタウン都市というところで、あまりにもただ受け皿的な感じがあるので。

【高橋会長】 分かりました。我々は総合計画を直接添削する立場にはありませんので、そういう意見もあったということで事務局にお渡ししておきますので、次に出るときにこういうふうを考えましたとおっしゃっていただければいいと思うのですけれども、よろしいですか。あまり文言をどうかと、あれを入れろ、これを入れろというふうにやることは審議会の役割ではありませんので。

【金子委員】 私も同じ意見で、ちょっとうまく考えがまとまらなくて見逃したのですけれど、「ますますの発展が期待される」というのは、何となくぴんとこない感じがするのですけれど。住宅としてますます発展が期待されるのですか。

【飛田委員】 住宅都市としてますます発展すると、そういう意味でしょうね。

【金子委員】 だけど一方では人が減っているというから、ちょっと。

【高橋会長】 見込みがありませんよという問題意識ではなくて、そういう都市を非常に難しい状況だけれど「ますます発展させる」と、私はそういうふうにとったのだけれど。

【金子委員】 それなら分かります。

【高橋会長】 その程度の意味しかなくて、具体的にこれをどういうふうにして実現する、これ以外の文言を入れるか入れないかということを書いたって、それはそれ以降に。

【金子委員】 むしろ少子化が急速に進展するけれど、それを乗り越えてまだまだ期待があるわけですよというくらいにいった方が、気持ち分かりますよね。何といっても少子高齢化が一番問題なのですから。それを乗り越えてやるのだということ。

【経営企画部長】 期待と懸念ということでご理解いただきたいと思います。

【高橋会長】 そういうことですね。

【飛田委員】 住宅都市として発展するけれど、こういう懸念があるよと。そういう意味ですね。

【経営企画部長】 そういう懸念があるよという視点です。

【田中委員】 前にこの文章素敵だなと思ったのは、多様な機能を備えて発展してきましたと。

【高橋会長】 それはちょっと美化しすぎでは。

【田中委員】 でもこれは美化ではなくて、市民の財産として、本当に心優しい高校生などを育てている状況でもありますから。

【高橋会長】 分かりました。ここに四街道に対する期待がいっぱい込められていますので、そういうことを踏まえて、基本構想案がどういう文章になるか楽しみにしています。他にありませんでしょうか。将来都市像のところは未定になっていますが、これどうしたらいいですか。

【事務局】 お示しできず申し訳ございません。

【高橋会長】 だから自由にいろいろご意見言っていただきたいと思うのですが。既に皆さんのご意見の中で将来都市像のところについての意見をいただいていますよね。7ページのところに金子委員と岡本委員の2つ、既に意見を述べていらっしゃるんですが、何かそれ以外にこういうことも是非考えろ、こういうことを生かして文章化せよとかいうようなご指摘があればいただきたいのですが。何もないというのは、これは辛いよね。

【金子委員】 どういう都市をイメージするかですが、このまちはどんどん工場が出来るとか、商業施設が出来るまちではなく、やはり人が中心のまちだと思うのですよね。それがイメージされるような言葉を入れて分かりやすく、ちょっと前にも言いましたけれど、「子育て日本一」というのは非常に分かりやすい言葉であるのですけれど、そういう感じの分かりやすい言葉で言ってもらった方がいいのではないかと思うのです。何度も言いますが、「光あふれる」云々という、このようなものはやめていただきたいということは申し上げておきたいと。私も責任があるから言うわけではないですけど、もうちょっと分かりやすい、これが四街道だと分かるのが、そういう言葉があればと。

【高橋会長】 現在の総合計画、基本構想ではどういう。

【事務局】 最初に書いてありますが「ひかりあふれ 笑顔が明日をつぐむまち」、これが将来都市像となっています。

こちらはタウンミーティングの際にも市民の方からも非常に分かりづらい、どういうイメージなのか、どういう都市像なのかというのが非常に分かりづらいという意見を頂いています。

【高橋会長】 政策推進課長のご見解はどうですか。ちなみに。

【政策推進課長】 個人的な見解ということですか。出来れば、1回聞いたら忘れない、しかもこれで四街道ってこんなだなというのが私も理想だと思っておりますので、その辺この審議会やタウンミーティングでもいろいろご意見いただいておりますので、その辺を踏まえて早急に将来都市像というのをお示ししていきたいと考えております。

【高橋会長】 子育て日本一と市長さんもおっしゃっているけれど、分かりやすいのではないかと。将来都市像で分かりやすい表現ですね。それ以外にもいろいろ出てくるかもしれないけれど。次回を楽しみに。

【金子委員】 出来れば新聞で話題になるような。難しいですかね。

【飛田委員】 提案なのですけれど、2番のまちづくりの視点の中で、四街道というところは地域資源を持っていますよということが大きなファクターだと思うのですよ。そうしますとやはり人と自然と歴史とか、そういうものが集客力を持てるような他市からもくるような何かが都市像として生まれてこないかなというのも一つの、夢的な部分が。

【高橋会長】 緑なんかはいいですね。緑豊かな都市。だから田園都市ではないですけれど。

【飛田委員】 ここにありますよね。緑と都市が調和したうるおいのあるまち。

【高橋会長】 他の都市とは違うのは緑。住宅都市を目指していた、それもあるのでしょうけれど、緑豊かな都市像というのものもあるかもしれませんね。それから子育て日本一。

【松隈委員】 ワークショップの中で、いろいろな四街道の強みだとか、そういう意見も出ましたけれども、そういう中でも必ず出る住宅。これは非常に住みやすいと、あと自然ですね。やはりその2つはどこへ行っても皆さんがいいと思っている。これは一番有利な点、魅力ある点ですね。だからそこをうまく取り出してきて他の市と違う、例えば子育ての日本一というのは、私は目指すと聞いていますけれども、これは他の市でもいっぱい子育てにかかるスローガン出して発表しています。だからその中でも四街道が本当にこれを目指すのだという言葉の、イメージアップにつながるような新鮮な言葉で引っ張っていくようなことが必要ではないかなと思います。

【高橋会長】 先程、田中委員から指摘もありましたけれども、足りないものもあるのかもしれませんが、緑と住宅が都市像の一つ、大事にしなければいけないものだと、これがあつた上で、そういう物理的なものをつくるのではなくて、子育てとか、高齢者の話も出ましたが、そういう私たちが住みやすい、生きがいのあるようなまちをつくるのかというのが、分かりやすいのかもしれませんがね。これについては市民の皆さんのご意見もあると思いますので、こういうふうを書けというところまで私たちが言うわけにもいきませんので。

【事務局】 今いただいたご意見というのは非常に参考にさせていただきたいと考えております。

【高橋会長】 田中委員どうですか。

【田中委員】 先程、新しい時代を踏まえた上での基本理念とか視点とかあると思うのですけれど、やはり松隈委員が言ったように、過去の計画的な都市づくりを踏まえたというと、私は「ひかりあふれ笑顔が明日をつぐむまち」というのは、これは漠としてちょっと分からないのですけれども、内容を見ますと、やはりここは都市的機能と豊かな自然が見事に調和したまち、それと生き生きと希望をもって明るく暮らしている市民の姿、これを出したのですよと、ひかりあふれとってね、自然だという意味ですよ。そういうことからしますと、私ちょっとこだわるのは、このキーになる、キーワードになるものを絞り込んでいく中で浮き彫りになってくる言葉といたしますか、キャッチフレーズなりが出てきて、それがちょっとこうイメージ、具体的といたしますか、ふわふわしたものではなく、前からの継承、この計画のそういうものを踏まえた上で、お作りになったらいいのが出来るのではないかなと思います。

四街道って素敵なまちで、イトーヨーカ堂、商業、いろいろなところから人が来るわけですよ、佐倉の方からも。やはり商業、四つの街道があって、流通都市として発展してきているのかなという思いがありますので、さっき住宅というだけの受け皿的な、東京に近いから、千葉に近いからじゃなくてというのが。それと教育というのがいろいろあって、やはりまちが人を、まちの雰囲気人がつくってということで、そういう福祉の本当に優しい人たちがいるわけですよ。四街道駅で杖を使う学生の姿を見ると。そういうものも確かな財産なのかなという思いもありますので、都市的機能の中に住機能、住宅だけではなくて、そういうものを踏まえた上での、練り上げていくとき、言葉に練り上げていくときにお願ひできればと思います。

【高橋会長】 それは是非この骨子をとるときに、それから市民との対話とかいろいろ機会があるわけですね。もう終わったの。

【事務局】 タウンミーティングはすでに実施しました。

【高橋会長】 その説明も後であると思うのですけれども、それも踏まえて次回どういふふうを書くか、事務局にお任せしたいと思います。

ひとつ、今前段でいわれた、前回のひかりと云々というのを翻訳する、具体的な分かりやすい言葉にすると「緑」とか、それから「住宅」とか「教育」とか、そういうようなことでもあるので、そこを、だから全体の狙っているところはそんなに前回と大きく方向が全然違っているわけではないのだけれど、分かりやすく、市民が分かりやすいものに次回まとめていただくということで、全体の方向については皆さん賛成していただいているですね。

【飛田委員】 あまり美辞麗句は必要ない。

【高橋会長】 あまり抽象的だとわかりにくいので、もう少し分かりやすい将来像をお願いします。

【事務局】 それは心掛けていきたいと思います。

【松隈委員】 みんなが主役で未来につなぐ暮らしと営みみたいな感じの。語呂合わせみたいな、何かこうぱっとしたものを。

【飛田委員】 理念と視点をここで集約するような形を。

【高橋会長】 次に将来フレームなのですが、これについては予測の仕方とか、具体的なものでずいぶんご意見いただきました。今回、市の方で事務局の見解ということで示されておりますが、これについては我々ずいぶん意見を言いましたので、後はこれを踏まえて市がこういうふうを考えますと言っていただくことになるとと思いますが、一つ私の方からコメントしておきますと、将来フレームというのはいかに正確に人口を予測するかということだけではなく、それは人口問題研究所の予測の仕方もある、また違う予測の仕方もある。ある予測ではマクロにやって、それを積み上げていくなど、いろいろなレベルがあるのですが、この総合計画というのは、むしろ四街道市は今後10年か20年でこういう一つのフレームを前提にまちづくりや地域づくりを、行政をしていくと、そういうビジョンみたいなものをつくり出すので、地方公共団体の中では人口は減っているけれども、人口をもっと増やしたいというビジョンをもって頑張るところもあれば、いろいろあるのですね。総合計画の人口を全部足し上げると、日本の人口が1億5千万とか、1億8千万になってしまうというような、そういう性格もあって、それ自身が問題だったのですが、今までは人口が増えていたものですから、その増えたものに行政がなかなか追いつかないし、いつでも目標を高く設定して良かったのですけれど、今こういうふうになってきている。そこで初めて過大ではないかという議論も出てきたわけですが、正しく予測するかどうかにあまりこだわると誰も答えは出せないし、我々は専門的な知識や方法論をもっているわけではないので、いろいろ過大ではないかと、そういう心配がいろいろ出たと、それを踏まえて市の行政、四街道市としてこういう人口をビジョンにして、これからいろいろな仕事をやっていきますという一つの姿勢を、目標というか指標ですね。あまり人口が多いか少ないかという議論をやり始めると私たちも何とも言えないので、これについては市の方にお任せしようと思っっているのですが、ただどういうふうに人口を考えるかだけ、課長の方から最後にご説明いただけますか。

【政策推進課長】 はい。最初に阿部主幹からありましたが、9万2000人、9万3000人というのは、ここまできたい、ここまで達成しなければいけないという完全なる目的ではないということです。あくまで9万3000人という目標を掲げて、それで10年後の四街道市が9万3000人という、こういうフレームを描いた上で、それに向かってまちづくりをやっていきたいと思いますということになります、9万3000人に達することが目標ではないと、あくまで9万3000人位の四街道を目指してそれぞれの施策をやっていきたいと思います、市民の方と一緒に頑張っていきたいと思いますということなので、会長がおっしゃられるとおり、これが多いか少ないかというのは我々事務局としてはいろいろと議論

はしたのですけれども、あくまで10年後の達成は実現可能だというレベルでの目標という形で設定させていただいております。

【玉井委員】 一つだけ、説明の仕方として、目標だというのはいいと思いますけれど、達成可能だというのは言わない方がいいと思います。何故かというとその言葉が多分皆さん引きずられて、本当にそうなるのか、というのが多分前回も根底にあったと思うのです。多分田中委員もおっしゃられて、作り方としては、計画に携わった者として作り方は決しておかしいものではない。私もやりました。この作り方は普通の総合計画の作り方、人口を考える場合の作り方だと思っていますので。だから説明としてはこの目標に向かってやっていくのだというように説明しないと、なかなかいろいろな市民の方いらっしゃいますので、嘘だろう、頑張ってもそんなに増えるわけないと。

【飛田委員】 現在、一般的な考え方としては、人口というのは全国的に減ってくるというのは皆認識している。地震とか天気予報よりも人口予測の方が正確だということです。それはどんな本を読んでも出ています。予測値にプラスアルファすると、そういうことを知っている人たちが、そのアルファが本当なのかという疑問点を持ってしまうのです。だから、それはなるだけやらないでいった方がいいかなと思うことと、もう一つは、年少人口と老年人口と生産年齢人口は、四街道市はホームページでもきちんと区分して載せるようにしていった方が、もっと市民はそういうものに関心を持つと思います。だから人口問題というのは、そういう予測値がしっかり出てくるものですから、例の計算方法で出てきますから。あれは問題ないと思うのですけれど、そういうことでやられれば、市民も、もう少し慎重にやっっていこうと、そういう考えになると思います。

【松隈委員】 私は、別の考え方でお聞きしたいのですけれど、四街道にとっては、やはり財政的にも人口が増えるということが一番基盤になってくるだろうということですね。だからここを出された人口フレーム、きちんとそれは出入りの数字だとか、あるいは今後投資していく金をどこに使うかということも含めて9万3000人の数字を出されていると思っているのですよ。さらに先程言われたように、市として生きていくためには若年層の人を住民にしていくと、呼び込んでいくということになれば、少なくともそういうお金でいろいろな形で社会保障とかやっていくと、全部連動していくわけですね。だから人口を今までのとおりでいいよという人は誰もいないと思うのですけれども、少なくとも努力目標として人口増やすのであれば、これだけの自然環境あるいは土地、宅地としてやはりベッドタウン市として人を呼び込むというような施策が前面に出てきてもいいのではないかなという気はするのですが。別にそれを私は批判しているわけではないのですけれど。そこがやはりまちづくりの一つの大きな課題だと思っているのです。だからその点も考慮していただきたいなど、だからもっと増やせということをお願いしたいくらいです。

【高橋会長】 これから議論する3ページ、4ページ土地利用構想、施策の大綱の中にそういう目標、増やすことを目的にとは書かないのでしょうかけれども、魅力のあるまちにし

て、若い人とか有能な人に来てもらうまちにするという部分書かれていれば、今松隈委員が言われたようなことは納得させられると思うのですね。

【田中委員】 私は前回も発言したのですが、将来フレームの作り方、これは適切なのだろうと、数字については。結果としてコーホートモデルを使って、現在の人口構造からコーホート、および計画的な区画整理事業ということで、首都圏の中で受け皿として住機能を計画的に整備しよう。その2つを合わせて見込んだところ、こういうふうになりました。ですから私は将来フレームについては、以前は目標的な、ここまで行きますよという達成の水準とか、目標みたいな計画の時代は確かにあったと思うのですが、やはり状況が変化してきて、そして都市づくりの目標というのは今住んでいる人がどうかというふうにルールがひかれてきていますので、これについての説明の仕方は玉井委員と全く同じなのですが、このように現在の構造、コーホートモデルと言うと市民もわかりにくいと思う。人口構造および計画的に進めている市街地整備を踏まえるということになります、というくらいの見込み的と言ったらおかしいのですが、目標的な数字ではないニュアンス、それは頭に目標的なこと、財政とか何とかいろいろやって、確かに少しは必要なのですが、どちらかという見込み的というくらいの捉え方で、説明されるといいのかなと。

【金子委員】 玉井委員が言われたように達成可能かもしれないけれど、私は目標で構わないと思うのです。というのは他の市も全部見たのですが、千葉市以外は大きな数字あげているのですよ。ところが現実とは乖離している。印西でもどこでも2、3万くらいプラスの数字をあげていまして、いま現在見ているとどうも達成されない数字なのです。だからそれはそれで、まさか低い数字あげられませんから。他の市がそう言っていることは、他の市も努力しているわけですよ。だから四街道だけ手をこまねいているとこんな数字にならないので、やはり皆さんおっしゃったように、この数字を達成するためにいろいろな施策をするのだというようなニュアンスを出すべきだと思いますけれど。ただ住宅、住宅地域が増えたから来てくれる、そんな簡単なものではないと思いますよ。他の市も増えているのですから。

【高橋会長】 私も目標という言葉でいいと思うのですね。というのは、将来人口にはいろいろありましてね、総合計画の将来人口もあれば、都市計画も同じように将来人口をつくるのです。都市計画で何故やるかという、例えば10年後にまちをつくるのに下水の管を入れ、道路を作るのに人口が予測より多かったらパイプが細くなって、もう1本入れなくてはいけないということになってしまう。仮にあまり過大にすると4車線つくってしまったけれど、2車線で良かったということになっても困るので、都市計画の人口についてはそういうことから10年位後の目標をたてます。総合計画は、もちろんそういう面もあるのですね。社会資本整備をどうするかとか、福祉をどうするかとか、全て書くわけですから、いい加減な数字ではなくて、やはり目標なのですが、市の行政には夢というのがありますよね。こういう市にしたい。そうすると黙っているとダメだけれど、頑張

ればこれくらいいくという中に、いろいろな幅があるし、頑張ってもうまくいくかどうか分からないのだけれど、市としてある目標を立てて、それにいろいろな施策をやっていけばいい、ただ、これがあまり過大になってしまうと無駄な投資になってしまう。学校を余分に作ってしまって困ってしまうということになっても困りますので。今までは人口が予測より多かったから、やっても全然困らなかったのだけれど、今こういうふうになってきたから微妙にこういう議論になってきているのですが、やはりビジョン的なものも市の中には必ずあるし、総合計画というのはそういう性格もありますよね。だからそこは慎重に考えて、やはり目標ということで、ただ20年、これ1回作ったら20年一切振り返らないで、まっしぐらということではなくて、やはり5年も経ったらまた同じように作って、また議論するでしょうし、5年間でそこに掲げた施策が全部完成するなどということはかつてないわけですから、そういう目標を掲げながら大事なところから、緊急性のあるところからやっていけば、そんなに過大になることはないのではないか、そのくらいに考えるしかないのではないのでしょうか。

だから、あまり正しいかどうか、予測の仕方が良いかどうかとか、そういうところに入り込まないで、しかしあまりにも今の社会情勢からいっておかしいことを、いきなり人口を倍にするといったようなことになったらちょっとおかしいのではないかと、そこら辺は皆さん常識というか感覚みたいなものも大事だと思うのですね。

ちょっといい加減な話になってしまいましたけれど、とにかく人口だけが問題になってしまうのですよ。私は事務局に言ったのですよ、この資料の中で人口だけが細かいではないかと。資料が細かい丁寧な表になって、これでは人口の問題が議論になるに決まっていると。他のものは空欄もあるしね、未定になっているのもある。だからちょっとウェイトが違うのではないかというような苦情も言ったのですけれど、まあ人口については皆さんいろいろ心配しているので、事務局の方はそこもよく考えて市長さんとすり合せしてください。

【事務局】 はい、分かりました。

【飛田委員】 やはりこれ一番関心がある。だからこれだけフレーム作ったのだと思うのです。それとやはりまちづくりの視点とリンクいろいろしていった方がいいと思うのですよ。人と自然と歴史だから、人の部分については人口の問題がこうですということがクローズアップ出来るように流れが出来ると、見ている人、市民も安心するのではないですか。

【高橋会長】 だから説明の仕方を。

【事務局】 承知しました。

【高橋会長】 人口についてはこういうふうになります、「予測です。」といってしまうと。

それでまた戻りますけれども、一応全部議論しておきたいので、3ページの土地利用構想ということで3つの柱があって、ここには都市の方向性、都市構造、交通体系と箇条書

きになっているだけなのですが、あと緑地空間ですね。都市の方向性と都市構造という2本立てで、それぞれがサブに別れているのですが、これってどういう内容ですか。

【事務局】 これは土地利用構想というので別に付けさせていただいております。詳細はそちらの方に明記させていただいております。

【高橋会長】 議題の3ですね。

ここでは先程、田中委員がご指摘したように住宅都市だけではなくて商業業務機能の導入とか、そういうことをやりますと書いてありますね。

子育てとかそういうのはここでは出てこない。子育てとか高齢者とか。右側へいくと活力ある都市、安全安心は防災とかそういう観点から。それから緑との調和の問題、今までの継続・・・。

【金子委員】 これは土地利用構想だから、それだけです。土地をどう使うかということだから。

【高橋会長】 だけど、子育てとかそういうもので、実はソフトな仕組みだけではなくて、都市構造が例えば四街道はちょっと違うかもしれませんが、一人二人の高齢者が郊外にいてなかなか車も運転できない、そういう人たちが都心に出るときに、都市にアクセスしたいような住み方をすると。こどもについても子育てしやすいまちというと、若い家族がこどもを安心して預けて仕事に行けるような仕組みを家の近くに作ると、実はものすごく子育てに優しいまちというのは土地利用構想にも関係するはずなのですよね。ところがそういうのは関係なくて、仕組みだけつくればいいというふうに考えているのではないかなと、ちょっと思ってね。これでいいのかなと。つまり都市整備とかそういうことからいうと、子育てには貢献するところはないというふう言っているように見えるのです。例えばこの絵もね、市長さん「子育て日本一」のまちとキャッチフレーズにも書いているのに、なんでこれがこの中に入っていないかがよく分からないのですけれど、そこはよろしいのですか。

【飛田委員】 ちょっといいですか。これ都市核と、地域核2つお作りになっていると思うのです。この辺私土地勘がないので歩いているのですけれど、よく分からないのです。例えば物井周辺が物井駅から大変離れた、四街道と物井の間に商業圏がドーナツ型に広がってきた土地ですね。そこを中心にして集客力をそちらに持って行って、経済効果を上げるといことなのか、それから成台中地域というのは何を目玉にして、ベッドタウンとしてやっていくのか、その辺のポイントをしっかり示さないと、何の核なのか。実は僕らもいろいろと仲間で話してですね、これ何の核なのかということになる。コアになるものが本当にあるのかと。それはやはり具体的なものを何か書かないと、こういうことでコアを作ろうというのであれば、そういうのはやはり明記すべきではないかと思うのですけれども。

【高橋会長】 2 ページのところに書いてある、四街道駅周辺と物井駅周辺と成台中。

【飛田委員】 これによって賑わいのある活力ある都市にして、四街道に集客力を増して、それで人口が流れてくるというのだったら、人口増構想というのが成立していきますよね。

【松隈委員】 もともと市の方はこれの骨格というのはいろいろなゾーンを決めて、イメージとして、例えば自然環境のある場所、住宅地がある場所、それから開発していく場所、あるいは商業面の場所、そういうことをいろいろと詰めて、ある程度のゾーンを決めた中で、じゃここはやっていきたいと思います、ここは農業にしたいと思います、ここは自然環境を戻しましょう、ここは全く人口集中でいろいろな形でやっていきたいと思います、そういうイメージで作っているということは、市民会議で説明を聞いたのですよ。要するにそういうゾーンの基本的な考え方でこういう地図が出来ていると。だからこれに添って今後は力を入れていきますよと。それが基盤になっていると思うのですけれど、今おっしゃっているそういうことがやはりきちっと本当に各市民がそこまで分かっているかというのは、なかなか難しい話で、私もそういう説明で初めて知ったくらいで、いきなり核、核といわれたときに戸惑う部分がある人もいるらしいと。そういう趣旨で作られたと私は聞いていますけれども。いかがですか。

【事務局】 こちら核が3点ございますけれども、前回資料に土地利用イメージ図というのが入っていると思うのですけれども、こちらの赤い点線が四街道駅周辺の都市核となっているのですが、これについては現行の総合計画であったり、またその前の総合計画でも同様に位置付けられており、教育施設であったり、文化施設であったりそういった従来からある施設、他にもイトーヨーカ堂が出来たりということで、かなり人が集まる施設の要素が集中しているということになります。

物井駅周辺地域核というのも、現行でも周辺核という位置付けであったのですけれども、こちらにおいても新たにもねの里が造成され、商業施設も新たに出来たということで、こちらの2点につきましてはJRで結ばれておりまして、四街道市内の市民の方も他の都市の方々も来られるということで、玄関口ということで、交流が生まれる地域になっています。

もう一方、成台中の地域核なのですけれども、こちらについても国道51号という流通経路、広域道路ですね、あと都市計画道路3・3・1こちらが交差する地域で、こちらについても今大型商業施設の出店が計画されているということで、四街道市民だけでなく八街方面であったり、佐倉方面であったり、千葉方面、市民の他にも他市からも人が訪れるということで、この3点については核という形、四街道の顔になるような地域というふうになります。

【飛田委員】 核づくりで、例えば物井駅からこちらの商業施設、あの辺まで歩いてみたのですけれども、相当の距離ありますよね。そういう問題に対して市は千葉で行っている

ようなパルコバスを出すとか、そういう無料バスで集客力を集めるとか、そういう計画とかもこういうところに乗ってくれば、ああこれは核だなと思うのですけれど。

【高橋会長】 ただこれはまだ開発の途中だから、そこまでなっていないけれど、都市計画的には市街化区域になっていて、そういうまちを目指していますね。だから四街道としてはこの3つを核として育てるということで考えている。このページも次のページの2ページのところにも示されているけれども、だから10年、20年かけてそういうものを育てていくと、その暁にはもしかしたら物井駅でそういうような交通とかそういう部分も出てくかもしれませんが、とにかく四街道市は2眼都市ではなく、3つの眼をもった地域づくりをするという、今まではどうだったのですか。

【事務局】 現行基本計画では核は2つでございます。四街道駅周辺の都市核、これは今回そのまま引き続きという形、あと物井が物井駅周辺核というがございます。これはいわゆる周辺核とはいつていますけれど、中では地域核といった名前が出ています。この2つ、大と小というかたちで2つであったというところです。お話の今回地域核にさせていただきました成台中につきましては、当時は新産業拠点ということで位置付けさせていただきました。これは51号を交流拠点として位置付けておりまして、その51号、それから先程のお話にも出ましたけれども、3・3・1号という四街道市を南北に貫く道路がございます。浅野委員からご意見をいただいたところなのですけれども、四街道市には南北に通る道路がないというところも含めまして、一本だけみのり町というところにあるのですが、JRを横切るものが。基本的にこういう大きいところがない。これを整備する。今回第1工区まで整備して、第2工区も優先順位が高いところになっております。この計画、それと成台中の土地区画整理事業、先程お話にもありましたけれども、大規模商業施設も計画されております。このようなことで核と位置付けました。3・3・1号の整備効果につきましては、防災関係の話として51号と東関道が緊急輸送道路として位置付けられておりますので、これらの路線の連携、また四街道インターにアクセスできるようになりますので、物流、それから流通、商業業務への効果。それから現在、旭ヶ丘、みそら、千代田この3つの団地はかなり人口が減ってきております。飛田委員のお話の中で出ました物井地区についても、かなり商業施設も入ってきておりますので、3・3・1で結ばれることによりまして、途中にあるみそら、旭ヶ丘の活性化も図っていききたいという思いもございます。その辺の話は土地利用の方向性の(1)のところの最後に「また島状に分布する市街地間の連携と都市機能向上の観点から幹線道路の整備や公共交通によるネットワークの強化に努める。」という部分はそれらを意図したところでございます。

タウンミーティングの中でも市長から再三お話がありましたが、四街道の場合東側が弱いということがございまして、その弱い地域に住宅団地、大規模団地がある。今後、その辺を改善というか、力を入れていきたいというところでございます。

【金子委員】 これは本質的な議論ではないのですが、私はここにはどういう施設を作るかとか、商業施設が計画されているとか、をある程度具体的に示さないと、絵に描いた餅

というか、市民から「何だ、この計画は」という意見が出てくると思います。

【高橋会長】 具体的にやらないと書けないというか、こういうビジョンがあって、それで具体的に進むということだと思えるのですよね。

それから都市計画の方でも市町村マスタープラン等があって、都市計画の中でもこういう核みたいなものを位置付けるわけでしょう。その方向で社会資本整備等は進めているわけですね。現実には、誰が来る、誰が来ない、来るというのが来なくなってしまった、いろいろあるけれど、だからこれが変わるというよりは、むしろ市としてはそこをそのような拠点として整備するという、そういう一つのビジョンでしょう。都市計画でも市町村マスタープランというのがあるでしょう。

【事務局】 はい。都市マスタープランというのがあります。

【高橋会長】 それは現在の総合計画に基づいて作ったのでしょうか。その中の絵はどのようなのですか。それとこれとが全く違うのかどうかということを知っているわけです。

【事務局】 おおむね同じです。

【高橋会長】 基本的に同じでしょう。だから踏襲して、ただ拠点として新しく位置付けを新しい総合計画でもしたいと、そういうことですよね。成台中については産業拠点を、今回は地域核にしている、内容はどう変わってくるかはこれから各論に入っていくのだけれど、今までと変わっているわけではないでしょう。

【事務局】 都市計画決定の中で成台中は準工業系の地域なのです。だから商業施設が来る、来ないにかかわらず、この地域は区画整理の中でそういうものが来るので一つの核に位置付けました。都市核につきましても、今のところ公共ゾーンということなのです。向こう側は商業的なゾーンということで、位置付けはそういう形にされていますので、何が来るかどうかというのはこの計画の中で問題にはしていないということです。ただ位置付けがそういう形にありますので、核として位置付けましょうということになります。

【松隈委員】 核の話なのですが、元々聞いているのは2つの核があって、都市核と周辺核物井がありましたと。成台中と今言っておられるのは、多分田中委員が言っておられた現行の計画では機能拠点になっていたのですよ。この機能拠点は住宅も含めてあそこを1ランク、地域核に呼び名を変えたと、だから核が3つになりましたと、そういうことですよね。中身は全く、やり方、進め方というのは今までと変わっていないと思うのですよ。さっきも言われたように大きなのが来ようが、来まいが関係なくて、あそこは商業都市、住宅都市、その3つを統合拠点としていく、そこを今回はっきり打ち出されたということで、私もこれを見ておったのですけれども。だからちょっと説明聞いたときに、現行やってきたことと相当変わったように思われたらちょっと錯覚するので、そこははっきり

させておいて欲しいです。

【高橋会長】 私も同じ認識なのですね。産業核、その呼び名を中心核、地域核という名前に統一したというか、3つになったと。

【田中委員】 以前は、機能拠点という言葉です。

【高橋会長】 具体的な中身がどうなるかというところまではこの段階では示していない。

【事務局】 具体的にはまだお示ししていない。

【藤本委員】 私も59番で意見を書かせてもらっているのですが、要は今回新しく計画を作るときに、どの部分を継承して、それが現状を踏まえるともっとこうしたいから、こういうビジョンのもとにこの部分は直しますとか、そのように説明していただかないと、どれから新しく、どこがちゃんと継承しているものかが分からないというか、その機能拠点だったものを核の一つに変わりますのというのだったら、何でそうするのかというのを目標なども踏まえてご説明いただけると、なるほどと分かるのですが、全くまたゼロからやり直すといわれると、これ「つなぐ」にからめると過去を無視して、現在未来をまた考えるのかという気もしますので、やはりある程度これまでの積み重ねで議論されてこういう計画でやっていきましょうとやっていたけれども、いろいろな情勢の変化でこう変えなくてはいけないところがある、ここを伸ばしたいということで、そのような資料の作り方も検討していただければ、もうちょっと話せるかなと思います。

【飛田委員】 おっしゃるとおりですね。僕、たまたまこれにはあまり関心がなかったのですが、初めて見た人は今の僕のように素朴な疑問が出てしまうのです。例えば他の地域から来た人がパッとこれを見たときは、あれ新しく加わったなど、こうなってしまうと思うのです。だから10年前からそういうことをやってきたという継続性こういうふうにしてきたけれど、今度新たに核を増やしたというようなやはり経緯がないと、難しいのかなと思います。

【高橋会長】 あとまだ2、3ページにあるのですが、どうでしょうか。

【田中委員】 機能に焦点を合わせて機能拠点ということで、今度核にするということは、より複合的な、多様な機能が集積するに至りましたと、これからそういう計画でやっていきますよというご説明なのだろうと思うのです。

それと前の計画と比較して将来の方向性の中で、(1)と(2)がちょっと反対なのですよ。 「安全・安心の快適都市」が上で、「にぎわいのある活力都市」がある。前の構想では「成熟都市に向かう市街地環境の整備」ということで、市民が豊かな、安全なというような意味でそういう名称になっている。その次にやはり都市機能も言われてみるとしっか

りしたものがあるところで、それが2番目になっている。先程の住宅都市とか人が住むまちということからすると、順番を変える必要はない感じもするので、それについてはご検討いただけますか。

【高橋会長】 このままだと、今、田中委員のご意見ということで、今までずっと四街道のいろいろなことをいっているのが、いきなりここで「にぎわいと活力のある都市」というのがぽんと出てきているのですよ。これ見ると始めの4行は、いろいろ書いてある。少子高齢化、人口構成も不均衡が課題になっていますといいながら、その先に書いてあることは、商業業務機能を発展させ云々ということしか書いていないのですよね。ちょっと今までからいうと子育て日本一とか、高齢者が住みやすいまちというのだったら、何かそういう観点でまちをつくっていくと、ソフトもハードも含めてね。というようなところでないといけないのではないかなと。ちょっとここだけ異質なのですよね。ここで文章を何とかということではなくて、田中委員からもお話があったし、私もちょっと。子育て何とかということであれば1番目でいいと思うのですよ。先程、私たち子育て日本一、高齢者云々と大事にしたわけですから、今回の柱にしてもいいと思うのだけれど、これだけだと「にぎわいと活力」ある都市というのが前のところの議論で出てこなかったのが、急に1番目に出てきてしまうというので、ちょっと異質な感じ。悪いことを言っているわけではないのだけれど、田中委員のご指摘のようなことが出るかもしれない。

【田中委員】 順番を変えるだけでも、やはり重要なものが一番先に打ち出すので、そういう順番を変えて前の素敵な、会長が言われた内容の市民の快適でというの也被まれていますので。

【高橋会長】 むしろここで言うとなると、さっきまでは住宅都市云々だったら住宅都市をさらにいい住宅都市にするというのを書かれてもいいのだけれど、商業業務機能の導入やにぎやかな都市をつくると、前のところに、にぎやかな都市をつくるなんて今までの議論で出てこなかった気がしたりして、悪いわけではないのですが。

【田中委員】 前の計画では2番目に出ていて、やはり会長がおっしゃったようなのが1番目の方になって、それも字句も素敵な感じがありますので、今回のものと比較しながら、内容も検討していただければと思います。

【高橋会長】 そのように検討してください。

【浅野委員】 私は基本的に、この3核構想というのですか、3つの核、そういう位置付けというのは、今までの議論を踏まえて異論がないわけなのですが、ただ会長が冒頭言ったけれども、構造とかハードとかをやればいいのかと。そうではなくて子育てとかシルバー世代が元気なまちとかいうふうな意味合いとか、ソフトがどうこれとリンクしていくのかという点で話をしたいのですが、今日、専門委員の中に商店街の方がおられないのだけ

れども、私はもしこの構想が順調に進めば、この四街道周辺の都市核の商業というものが空洞化する可能性があるということを予測しています。これは古い話なのだけれども、ドイツでまちづくりに成功した例をテレビのドキュメントで見たときに、一番の中心、ここで言えば四街道の駅なのですが、その周辺に高齢者と学生を居住区で集めた、それで生産世代の人たちはその外側の核に住んでいる。ここで言えば四街道駅周辺には高齢者とか学生たちが主になって、生産世代はその外側か、あるいは物井とか成台中の方へというような誘導政策をやって、すごくにぎわいがあって、生産人口も減らないというような話があった。今日は商店街の人が来ていないのですが、四街道の中心部の商店街の人たちはある種の危機感を持っていると思うのです。こういう3核構想で進むのはいいけれども、それでは駅前のシャッター通りはますます増えるのではなからうかとか、俺たちの商売をたたまなくてはいけないのではないだろうかというようなことで。それでちょっと突飛な話ですが、これもテレビでやっていましたけれども、まちづくりというのは自分で言うてはおかしいのだけれども、若者でなくてはできないというのです。いわゆる突飛なアイデアをぼんぼん、ぼんぼん持っていて、それを実行していくような力、私は駅前のシャッター通り化ということはやはり、われわれには分かってはいないけれど、どうしても起きると思うのです。そうすると私は県の方で公共事業を40年近くやってきたのですが、交換分合というような方式で、これは四街道だけでやれるものではなくて全国的な動きの中でやっていかなくては出来ないことだと思いますけれども。

【高橋会長】 (1)の部分を今言っているのですね。(1)の部分にどういう要素を入れたらいいか。今おっしゃっているのは都市の方向性の部分ですか。

【浅野委員】 会長が言ったように、構造とかハードの部分を取り仕切れればいいというふうなことではなくて、先程言った、子育て世代をどうリンクしてさせていくか、シルバー世代がどう元気になっていくかということについての私の案を今話している訳なのです。

四街道は空洞化ということは一方では考えていかなくてはダメだと私は思うのです。それでないとやりっ放しみたいな公共事業になってしまうと。

【飛田委員】 ちょっといいですか。浅野さんにお聞きしたいのですが、そういうまちづくりしますよね、そうすると例えば核構想って、コア構想で、周辺にそういう大きなもの、核を作っていくと真ん中が空洞化するということでドーナツ型現象が起きるということで理解していいわけですか。

【浅野委員】 そうですね、やはり駅周辺の空き店舗というのは、シャッター通り化を私は危惧しております。

【飛田委員】 よく地方都市にそういうケースがありますよね。だからそういう行政計画を立てますと、多分山形などもそうだし、いろいろなところをちょっと散策しますと大体そういうケースが起きているのですけれども、四街道はそういう方向に向けるということ

ではなくて、違う形で今お考えになっているということ、市民に分かりやすく説明すれば、その商店街の人も危機感持たないですしね。

【高橋会長】 今の中心核といわれるものも、郊外に行ってしまうわけですね。

【飛田委員】 中心核、地域核に向かってくるように流れが作れば一番いいのですけれど、そういうような構想が出来ればいいのですけれど、なかなか難しいですよ。かなりロケーション上無理がありますよね。

【松隈委員】 実際には、四街道の顔というのは四街道駅の周辺かと思います。そこが都市核になっているわけですよ。地域核は物井と先程言った成台中。あくまでもこれは地域、地域として中心と結びますから。

【飛田委員】 違いますよね。浅野さんが言っているのは・・・。

【松隈委員】 空洞化の話をされている。空洞化の話。空洞化ではなくて、これからまちづくり・・・。

【高橋会長】 ちょっと時間もないので、この部分について例えばここが問題で、こういうふうにした方がいいということであれば今議論しますが、もしそうでなければ後に置いて先に進みたいのですが。

土地利用については皆さんご意見をいただいたとして、残りの分も今日は時間が全然ないものですから、施策の大綱のところについても何かお気づきの点がありましたらご意見をいただきたい。まだこれ目次、項目しか立っていないのですが、例えば項目が1番ではないかとかいうことかあれば。例えば柱が1つ足りないとか、順番が違うのではないとかそういうような話になると思いますが。

【浅野委員】 はい。その前に簡単な事務的な話なのですが、意見要望表の中の29番ですね。私の1点で、茂原市の日立工場の撤退・・・。

【高橋会長】 すいませんここで意見要望を出したところについては、事務局の意見もありますが、それと違う内容ですか。

【浅野委員】 そうではなくて、まず訂正していただきたい部分についてお話しします。29番の私からの発言で、茂原市の日立工場、日立工場が撤退した。これパナソニックですね。パナソニックの後に日立工場が後処理に入っているということなので、訂正してください。

施策大綱についてですが、これは意見要望表の中でも言っていますが、基本目標5の「にぎわいと活力にあふれたまち」の中で、道路・交通という項目があります。都市計画道路

は、基本目標2の「安全・安心を実現するまち」の防災というところにも、1項目追加すべきと私は思います。特に都市計画道路は皆さんご専門の方もおられるだろうけれども、強度の規格が高いのですね。一般の国道や一般の県道や一般の市道と比べて、ご存じのとおり阪神・淡路でも今回の大震災でもそうだけれど、一般市道、一般県道は板チョコのようにグニャグニャになってリヤカー1台通れない。ところが都市計画道路はですね、路肩が一部崩れたとか、ちょっと中央分離帯と本道に剥離が出来てしまったとか、あるいは波を打ったとかという程度はあったけれども、やはり生き残ったわけですから、これはそういう規格の高い都市計画道路と、一般県道や一般市道と一緒にして、移動方法だ、交通移動の政策だというふうに、ごっちゃに論じてもいいけれども、一方で防災の位置付けというのもきちんとすべきだということも、これは意見要望の中でも言いましたけれども。

それで基本目標のところにも、何とか高規格道路みたいな言葉で入れられないものかなという意見ですね。

【金子委員】 ちょっとよろしいですか。私の意見は51番に書いて、あえなくボツになったのですけれど、それは構わないのですが、私が申し上げたかったのは、1、2、3、4、5、6、目標は6つでも構わないのですが、最後の6番のところはちょっと気になったのは、「ともに創る将来に向けて持続可能なまち」というのがよく分からない、どうしてこういう文言が出たのか分からないので、意見出したら、これは皆が、市民が協働で参画してやるのだというお答えだったので、しかし、「ともに創る将来に向けて持続可能なまち」というのはどういうイメージなのだろうと、将来に向けて持続可能なというのは、持続可能とするためにこの総合計画があるわけですから、ここでなぜもう1回持続可能というのが出たのかよく分からないので質問したかったのですが。

【高橋会長】 検討してもらおうということによろしいですか。

【金子委員】 いや、検討してもらったら、このままで行きたいという意見だったので。例えば市民が参画するとなったら分かりやすいのですけれどもね。ともに創るというのは、私にはぴんとこなかった。それで内容が、市民参加・市民協働、地域コミュニティ、シティセールス、男女共同参画、国際交流・平和まで入っているので、何だこれはという気がしたのですけれども。

【高橋会長】 「将来に向けてともに創るまち」とかいうのだったら分かりやすいですか。

【金子委員】 それなら分かるのですけれど。私の理解力が不足しているのかもしれないけれど。どういうイメージなのだろうと。一緒に参画するということを中心なのか、そのところ分かりやすく説明していただきたい。

【高橋会長】 再度ご意見が出ましたので、ちょっとご検討ください。

【事務局】 事務局見解のとおりなのですけれども、本当に市民の方と協働で一緒にまちを創っていきましょと、将来的につなぐまちを創っていきましょということを意味しています。ただその表現が分かりづらいということであれば、ちょっとこれは今すぐ変える、変えないというのは判断できないのですけれども、市の内部でも検討させていただければと思います。

【金子委員】 内容は分かるのですけれど、ちょっと文言が変だなと。

【田中委員】 抽象度が高くて、包括的な持続可能というのは・・・。

【高橋会長】 ちょっとそれは後にしましょう。1つずつ質問しますけれども、1から6は今までの総合計画と全く違うものが出ているのか、同じものが出ているのか、それはどうなのですか。

【事務局】 言葉は違っています。言葉も違いますが、順番も入れ替えていますし、今回最初に基本目標1に「だれもが健康でいきいき暮らせるまち」を持ってきているのは、ある程度人が来ていただくためには、まず子育て環境というのが第1かなというところを踏まえまして、こういった子育て支援と高齢者支援というものをトップもっていきました。2番目として安全・安心、これは完全に防災です。

【高橋会長】 それだけでいいです。他にいかがでしょうか。時間がなくなってきたのですが、これについては今日ご意見いただきましたが、さらに意見を出していただけて結構ですか。

【事務局】 出していただいても結構です。事務局見解として整理はしないで、今度いただいた意見はご参考にさせていただいて、基本構想骨子ではなくて、基本構想案の方でお示しできるものはお示ししたいと考えておりますので。

【高橋会長】 そうですね。ですからいただきました意見、要望の部分も入れて、それから今日出た部分も入れて、もし別途ご意見があればそれも勘案してもらって、次に基本構想案が出る。

【事務局】 その案を示す際に、こういった点を修正させていただいたとご説明させていただければと。

【高橋会長】 非常に時間がない中での、途中でご意見を遮ったりして大変失礼だったのですが、一応最後まで流れたと。足りないところは随分あると思いますが、後は「その他」がありますね。これは何ですか。

【事務局】 その他でございますけれども、先日実施したタウンミーティングについてご報告させていただきたいと思っております。本日タウンミーティングの結果ということでお配りしてあるのですけれども、去る2月11日から2月20日にかけて市内7会場におきまして「市長と語ろう！ まちづくりを考えるタウンミーティング」ということで実施させていただきました。本審議会でご審議いただいているものと同じものを資料としてお示ししまして、市長がパワーポイントを使いまして説明いたしました。その後市民の方と意見交換を行いました。参加人数としましては、延べ113名です。

タウンミーティングで出されました主な意見を紹介しますと、将来都市像についてはこちらでも意見をいただいておりますが、未定であるのでまちの姿がイメージできないとか、あるいはこんなまちを目指して欲しいという参加者からの意見等多数ございました。

その他には子育て支援に関するご意見といたしまして、保育所に入りづらいですとか、もっと子育て世代に対する補助とか支援を増やして欲しいとか、そのような意見がありました。

定住促進としましては、四街道で育った若い人たちが外に出て行かないでまちに残れるようなそういった施策をしてほしい。あるいは若い人が四街道に移り住みたくなるような、そういった施策を出して欲しいというような様々な意見を頂戴いたしました。

全体としましては、市長自ら基本構想について語るということで、説明したので、おおむね参加して良かったというご意見はいただいております。タウンミーティングについては以上でございます。

【高橋会長】 よろしいですか。それでは今日はここで終わりたいと思っておりますが、何かございますか。

【政策推進課長】 皆さま、いろいろご意見いただきましてありがとうございます。同時並行でタウンミーティングを進めさせていただきまして、本審議会およびタウンミーティング、様々なご意見をいただきましたので、いただきましたものは出来るだけ基本構想、基本計画の方にいろいろ反映できるような形で我々事務局としても努力してまいりたいと考えております。全てのを反映してしまいますと、やはり計画自体がでこぼこのものになってしまうので、なかなかそういったものは難しいのですが、極力いろいろご意見を参考にさせていただきたいと考えております。

また基本計画を急ピッチで進めているところでございますので、なかなかお示しできないのは誠に申し訳ないと思っております。ただスケジュール、期限の方も決まっているということで我々も非常に焦っているのですが、お時間がない中、おそらく次は年度明けということになると思いますので、また出来るだけ早めに皆さまにお知らせいたしまして、基本構想と出来れば基本計画の骨子案の方をお示しさせていただきたいと考えておりますので、また引き続きよろしく願いいたします。

本日はどうもありがとうございました。

【金子委員】 ちょっといいですか。今日の会議の位置付けというのは、これは特別やっ

ていただいたのでしたっけ、この最初に示された会議日程の他に。

【経営企画部長】 第3回の継続というか、時間がなくなったものですから。

【事務局】 月末にやろうという形だったのですが、誠に申し訳ないのですが、年度明け早々になってしまうかもしれないということでご了承いただければと思います。

【田中委員】 すいません。1ページ目に意見というか提案したいのですが、それは後でお伝えしてもよろしいですか。まちづくりの課題というのを。まあ順番もいろいろ含めて、ここにも持続可能というのが、行財政運営のなかで限定的に出ていますけれども、それはやはり非常におかしいという感覚がありますから。

【事務局】 ご意見はいただければ、それをもとに検討させていただきます。

(以上)